

# 常なる磐

つねなる いわ

令和2年9月11日(金)号

## ◇ 求めて はげむ① 【常磐東小学校 校訓】

正門をくぐり、斜め上前方に視線を移す。30段弱の階段の最上段にあるのは、石板の黒御影石に白文字で刻まれた本校の校訓【求めて はげむ】。

児童が登校してくるときは階段を上るために足元を確認しなければならないが、最上段まで階段を上れば、自然に目に映る絶妙な場所に位置している。しかし、さみしいことに、児童たちはほとんど気にかけていない様子。

校訓の横を抜けて正面玄関を過ぎ、本校本館をぐるりと左手に曲がる。するとそこにも、石板の黒御影石に白文字で刻まれた本校の校訓【求めて はげむ】が迎えてくれる。児童は、2度目の校訓を抜けて昇降口へと向かっていく。

児童は登校時に2回、下校時に2回、一日で計4回、校訓を目にしている。

校門前方にある校訓は、平成5年度の6年生から贈られた卒業記念品。すでに27年が経過し、刻まれた文字の白塗装はわずかに残るのみとなった。

児童昇降口横の校訓は、同窓会発会記念として昭和47年に建立されたもので、安戸の旧校地から移設されたものである。こちらは黒御影石に文字が刻まれたのみで、塗装のないタイプ。影の陰影で表現している。そして2つに共通するのは書体で、時代をまたいで受け継がれたと考えてよいだろう。

つまり、2つの校訓【求めて はげむ】に、新旧同窓生の思いが宿るのだ。

児童は校訓にそれほど強い思いはないのかもしれないが、受け継がれ、学校に宿る魂は、きちんと子供の中で温められているようだ。

例を挙げれば、掃除の取組である。以前に伝えた4年から6年生の草取りを行う姿については記載したとおりであるが、下級生も負けてはいない。担任の指導もあるが、「清掃をしっかり行うのはあたりまえ」という空気が学校に流れている。取組が空気を作り、生み出された空気が、さらに取組の密度を濃くする。つながる取組。つながる空気。掃除に対して【求めて はげむ】ことができている。

ほかにも5年生の様子を紹介したい。理科の授業と総合的な学習の時間をクロスカリキュラムで行い、ギョギョランド（校地内の人工池）の生態を観察すると並行して池を清掃してくれている。その取り組む姿が、まさに【はげむ】。さらに、ギョギョランドのために池看板の再塗装や破損した池淵の修繕の声が上がったという。【はげむ】から、次に【求める】ものが見え、意欲が高まるのだ。

つながる意欲、連なる意欲。まさにこれが【求めて はげむ】なのである。

